

朝の準備

Wedge White

「ううっ……今日もすごく張っちゃってる……」

朝起きてすぐに、私はパジャマを脱いで裸になってしまった。

理由は、胸がすごく疼くから……。

「はっ、ああっ、あああっっ……!!」

そして、痛いほどに張ったおっぱいと、その先端にある乳首を思い切りきゆうっ、て搾ると、四方八方にミルクが飛び散っていく。

「ふっ、あああっ……! やっぱりこれ、すごいいいっ……!!」

母乳を噴き出すほどに、体全体が気持ちよくなって……アソコもぐしよぐしよになってしま
う。

部屋は甘い匂いに包まれて、頭がぼーっとしてきて……ミルクを搾るのに夢中になる。

「ダメ、なのにつ……! こんなエッチなのつ……でも、でもおっ……!! ひゃああああああっ!!」
噴き出すおっぱいが止まらない。手どころか、体中がびしょびしょになって、自分がどんど
んエッチになっていくのがわかる……。

きつとこんなこと、まだ私ぐらいの歳の子はしてない……それも、おっばいを搾って感じるなんて、変態過ぎる。

その自覚はあるのに、この気持ちよさを知って、それに、生活に支障が出るほどにおっばいが張ってるんだから、仕方がない……。

「あつ、あう、あああつ……!!ぜ、全部つ、全部師匠のせいなんだからあつ!私、悪くないいいつ……!!」

そう、私のせいじゃない。だから、いいんだ……思いつきり感じて、師匠が悪いんだからつ……。

「おつ、おつ、おふうううつ!!イツひやう!おっばい、イツ、くうううううつ!!」

一際激しく、おっばいが溢れ出して……それと同時にアソコも決壊して、私は上からも下からもエッチなおつゆを垂れ流して激しくイツてしまった。

毎朝、毎朝、私はこんなことをしている……。イケナイこととわかりつつ、もう私はこの習慣をやめることができなくなっていて。

それに……。

「え、へへっ……昨日よりも気持ちよかったあつ………」

少しずつ毎日開発されていつて、おっばいの感度がすごく高くなっている……。

おっばいをいじるとアソコもイけちゃうから、アソコを触る必要なんてない。今はクリより

も乳首が感じるし、本当は感じないはずの乳房を揉むだけでも、頭がイツちやう……。

もしも治安の悪い世界に行ってしまったらきつと私、悪い人に襲われて、一生オモチャにされちやう……。

そんなことを考えるとゾクゾクしたいけない気持ちになって、また、おっぱいが止まらない。

「そろそろお仕事の準備始めないと……んっ、でもっ………」

おっぱいをいじる手が止まらない。

「もうちよつとぐらい、いいよね……後、ちよつとだけ……」

だってこれも、お仕事の準備なんだから。

朝の準備

2021年 9月26日 初版

奥 付

著者	Wedge White
URL	https://wedgewhite.com
E-Mail	konjyoyasuhiro@gmail.com

本書の無断複製、複写、転載を禁止します。

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

(<http://tokimi.sylphid.jp/>)